

土器田町内会の防災訓練インタビュー

土器田町内会は、外国人が住民の2割を占め、日本人を含めて8か国の人たちが居住する団地の中にあります。

住民の90%が参加するという防災訓練開催の秘訣を伺いました。



平成26年度 防災貢献団体として表彰

問. 積極的に外国人と一緒にやろうと思ったきっかけはありますか？

答. 国籍を問わず町内会に入会してもらっているの、特別に考えたわけではありません。

問. 言語や防災意識の違いで考慮したことはありますか？

答. 理解してもらえらるまで説明することです。地震がない国からの転入者もいますので、毎年繰り返すことで防災意識を高めています。



問. 担当を、男女の性別によって分けていることはありますか？

答. 役員の6割が女性ですし、毎年役員が変わるため決まりはなく、それぞれができることをやっています。ただ、町内に3名いる女性看護師の方たちには、救護を担当してもらっています。

問. 今後の課題はありますか？

答. 家具転倒防止の講習も受けましたが、普及していくのは難しい課題の一つです。また、2階以上に住んでいる方の救出方法など、今後も様々な課題に取り組んでいきます。



【インタビュー】※右側奥から

相談役：脇山さん

副会長：岩佐さん

会長：大峰さん

通訳：オルテガ レオナルドさん



～インタビューを終えて～

日本語が分からない住民の方にも理解してもらえるように、町内会で説明資料を何カ国もの言語で作ったり、通訳の方と何度も訪問して分かってもらえるまで説明したりして、地道な努力の積み重ねがあって今に至るそうです。防災活動を含めたすべての活動が、国籍や人種・性別・年齢を超えた信頼関係を築く基になって、地域全体が一つの大きな家族のようでした。

土器田団地は、昭和41年に建てられた雇用促進住宅で、建物の老朽化により、今後の生活がどうなるか分からないという話も出ましたが、みなさんの熱意と努力、前向きな姿勢からは、私たちが学ばべきところがたくさんあると思いました。

男女共同参画週間イベント

さんかく楽集会 がくしゅうかい

男女で共に考える防災 ～避難所運営を成功させるカギ～

日時：平成27年6月27日(土) 13:30～16:00

場所：安城市民交流センター 多目的ホール

講師：池田恵子氏(静岡大学教育学部教授)

参加人数：101名

※安城市では、第3次男女共同参画プランの基本施策の中の1つに「地域防災の取り組みに女性の視点を取り入れる」という項目を挙げています。今回のイベントでは、「さんかく21・安城」の年間テーマでもある、「女性の視点を取り入れた防災」について、講演会が行われました。



第1部：講演

パワーポイントを使って、避難所の物資の配布場所です実際にあった事例や、災害後の被災者の実態の説明がありました。

下のイラストは、物資の配布場所で、女の子が欲しいものを言い出せずに戻ってしまった一例です。受付は男女のスタッフで対応するなど、必要な準備や心構えなどを学びました。



イラストは、東日本大震災女性支援ネットワーク(現、減災と男女共同参画 研修推進センター)作成

第2部：ワークショップ

グループワークでは、避難所を運営する上で重要な、次の3つの課題について活発な話し合いが行われました。

- ①避難者名簿に記載してもらう項目
- ②避難者に対し、避難者数に満たない数のおにぎりしか届かなかったときの対処のしかた
- ③避難者のニーズを把握するための情報収集と物資の適切な配布方法



ワークショップの様子

自治会の会員や男性参加者も多かった今回は、年齢、性別にかかわらず、多様な視点から様々な意見が出されました。

さんかくニュース

平成27年度の安城市発展祭(5月8日)において、石川政子さんと黒柳二三子さんが、永年にわたり、農業委員として市政に尽くした市政功労者として表彰されました。

男性独占のことが多い農業委員会ですが、お二人は揃って女性初の農業委員として道を拓いてこられました。また、「さんかく21・安城」とは節目ごとにつながりのある方です。

今回のインタビューでは『家族経営協定』についてもお話いただきましたので、挟み込みページで詳しく紹介します。

石川さん・黒柳さんの「さんかく21・安城」での主な活動

- ①発足当時副会長として活躍
- ②エンパワーメント講座や安希の会の会員として活動
- ③10年史へ寄稿
- ④平成25年総会で「農村生活アドバイザー」として食育の紙芝居を紹介

